

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立高美が丘小学校	校長氏名	澤田 直哉	生徒指導主事氏名	中山 佳代
-----	--------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『めざせ あいさつ レベル4』

取組のねらい『児童全員の挨拶意識の向上』

より良い学校生活を送るために、「高美っ子めあて」の重点目標の一つである「あいさつ」についての取組を学校全体で行い挨拶が進んでできる児童を増やすことで、自主的・実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『呼びかけ合う挨拶運動』

○児童会による朝の挨拶運動

- ・児童会役員児童が毎朝校門と玄関前に立ち挨拶を行っている。
- ・登校してくる児童の顔を見て「自分から大きな声で笑顔で」の「あいさつレベル4」を意識して挨拶をしている。
- ・毎月、中学校の先生が児童会役員児童と一緒に挨拶を行い、中学校の先生の感想を聞き、お昼の放送で紹介している。



<あいさつレベルの指標>

○学年で工夫して行う「あいさつを広げようキャンペーン」

- ・学年が担当する月の中で1週間程、学年で挨拶を頑張れるような方法を考えて挨拶が増えていくように取組を行っている。

6 学年	6 月	最高のあいさつを！
5 学年	9 月	あいさつの花を咲かせよう。
4 学年	10 月	みんなにあいさつしよう。
3 学年	11 月	あいさつ名人見つけた！
2 学年	1 月	あいさつ名人大集合！
1 学年	2 月	パワフルあいさつ



○全校朝会「高美っ子めあて」～挨拶編～

- ・月初めに、学年や教師がその月の「高美っ子めあて」を紹介しみんなで守ろうと呼びかけている。「挨拶はなぜするのか」「どんな挨拶をめざすのか」話し合ったり、いろいろな挨拶を比較して練習し合ったりして全体で意識していくようにしている。

○生活アンケート

- ・年間3回の生活について14項目のアンケートを取り、児童の意識状況をとらえ、取組や指導に生かした。

挨拶項目と指標：「すすんであいさつはできていますか」（90%以上）
「あなたのあいさつレベルは、何ですか」
（レベル3以上90%以上）



取組の課題・創意工夫『相手に伝わる挨拶に』

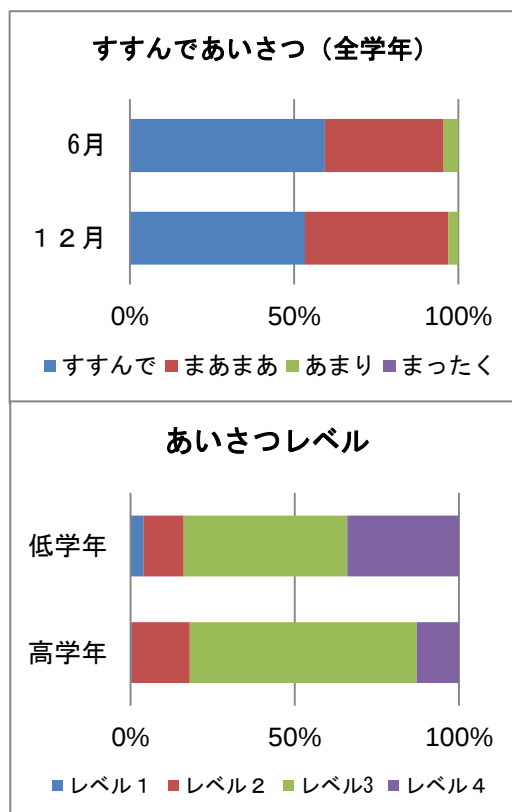
生活アンケートの結果から、ほとんどの児童が「進んで挨拶ができる」と答えている。しかし、日常の挨拶は教師や保護者・地域からの意見を聞くと、まだ十分できているとは言えない状況が見られる。挨拶をされたら挨拶を返すことはだいたいできるが、自分の挨拶の仕方に甘んじて、客観的に見ることでできていないことが課題である。そのために、児童同士での挨拶の機会を増やし意見を述べてもらうために「あいさつキャンペーン」等を取り入れた。お互いが気持ちのよい挨拶を意識し合うことをねらった。

取組の成果（効果）『笑顔で挨拶 上昇中』

生活アンケートの結果から、全校で挨拶に取り組むことで、「進んで挨拶ができる」と答える児童は96%に増えた。登校時に児童会役員が元気に挨拶をして呼びかける姿が全体の良い見本となり全学年に良い影響を与えている。また、中学校の先生方からの意見や感想は、児童全体の励みとなり、児童会役員児童の達成感にもなっている。さらに、各学年の挨拶の取組を学年で考えることで自主性が育ち、児童同士が挨拶をし合い、挨拶をした相手の返し方を見ることで自分の挨拶を意識し、より良い挨拶をしようとする向上心も育ってきていると考える。しかし、挨拶がでにくい児童が固定化している傾向があるので、個への取組が必要である。

学年別に見ると、学年が上がるにつれて「進んで挨拶することがまあまあできている」が増え、あいさつレベルでは「自分から大きな声で挨拶をするーあいさつレベル3」が増える傾向が見られる。つまり、学年が上がるにつれて、レベル4よりレベル3が増えている状況がある。

本校がめざす「あいさつレベル4」は、「笑顔で」がキーワードである。「笑顔で挨拶することは気持ちを込めること」を1月に全校に呼びかけて取組を進めている。



今後の展開『高美っ子の笑顔の挨拶』

本校がこれからめざす挨拶として、「レベル4」の挨拶の内容の中で、さらに「自然にできる挨拶」を目指したいと考える。気持ちのこもった挨拶が自然にできて、「笑顔の挨拶」が広がることが「高美っ子の挨拶」である。「笑顔の挨拶」が心からできるよう、日々人間性を育て、高美が丘小学校の挨拶がこれからもより学校から地域へと伝わっていくようにしていきたい。

他校へのアドバイス『挨拶が自分からできるように仕組む』

挨拶ができるということについて、つい態度面でできることにとらわれがちである。まず、教師や高学年や地域が模範を見せ、それができるように進めていくことはもちろんではあるが、自主性や実践を促す場を教師が仕組み評価をしていくことや、態度面だけでなく心理面を育てていくことが大切だと考える。